

吉利 宗久 研究室 (特別支援教育に関する教育学)



教育学研究科
発達支援教育学系
特別支援教育講座
教授
博士 (学校教育学)

自己紹介

私は、特別支援教育の基礎理論に関する講義を担当しています。具体的には、「特別支援教育概論」、「特別支援教育史」など、障害のある子どもの教育に関する基本理念、制度、歴史、社会的な内容を含む分野です。

特に、障害の有無にかかわらず、可能な限り通常の教育環境における子供たちの成長・発達を目指す「インクルーシブ教育」の動向に注目しており、国内外の取り組みについて研究を進めています。

卒業論文・修士論文の主な研究テーマ

- ・公立小学校での交流及び共同学習における児童への配慮と教員間の連携の在り方
- ・保育現場における幼児の発達段階に応じた手遊びの実践とその課題
- ・難聴学級の発展の経緯と背景に関する史的研究-岡山市立旧内山下小学校の実践を中心に
- ・肢体不自由者のスポーツ参加における現状と課題
など

学生へのメッセージ

特別支援教育やインクルーシブ教育が推進されていますが、それらの取り組みはどのように起源し、変化してきたのでしょうか。なぜ、どのような変化が必要とされてきたのでしょうか。また、子供たちを支える仕組みには、どのような条件が必要なのでしょう。特別支援教育の歴史やシステムには、解明すべき課題が残されています。それらの課題は、教育実践の基盤と密接にかかわっています。障害のみならず、貧困、いじめ、不登校、虐待など、特別な支援を必要としている子供たちの教育的支援のあり方について、一緒に考えていきましょう。

専門分野・研究テーマ

①特別支援教育に関する比較教育学的研究：わが国における国連「障害者権利条約」の批准をふまえ、今後における特別支援教育の方向性について、諸外国の動向を参考にしながら検討しています。

②わが国の特別支援教育体制に関する研究：特別支援教育を支える学校教育システム（特別支援学校のセンターの機能、特別支援教育コーディネーター、個別の教育支援計画、学校の医療的ケア提供システム等）について検討しています。

③米国の特殊教育 (special education) に関する研究：インクルーシブ教育の視点から、米国の法制や判例を分析することにより、今後の実践的課題の究明に取り組んでいます。

研究室の活動

これといった特徴は何らありませんが、定期的なゼミ、学校・施設訪問や講演会を通して地道に学びを深めています。何より、留学生を含めゼミ生の仲も良く、充実した学生生活を過ごしてくれていると思います（卒業生との定期的な交流の機会も設定しており、多くの刺激をいただいています）。

①米国学校視察の実施→学生の学校訪問をサポートしています。最近の3年間はハワイ州の公立小学校・中学校を訪問し、日本との共通点や違いなどを学びました。

②米国領事館共催講演会の実施 (平成27年度、平成28年度)
→米国領事館との共催で講演会を開催し、ゼミ生を中心に多くの学生が貴重な学びの機会を得ました。なお、ジョン・ウォダッチ氏 (米司法省, 平成27年度)、トム・ハーキン氏 (米国連邦議会元上院議員, 平成28年度) といった米国の障害者政策の推進に大きく貢献した方々の話から、研究室一同、多くの刺激をいただきました。



世界の障害者施策に影響を与えた「障害のあるアメリカ人法」(ADA)の生みの親であるトム・ハーキン氏から、学生へのメッセージもいただきました。

その他：これまで、中国、モンゴル、ベトナムからの留学生が在籍しています。学生が卒業論文で取り組んだ教材 (視覚障害, 令和元年度; 聴覚障害, 平成30年度) が公益財団法人 消費者教育支援センター「消費者教育教材資料表彰」行政部門の「優秀賞」を受賞しました。本教材は、岡山県消費生活センターの指導に基づいて作成されたものです。